

市政一般質問発言通告書（会派代表・個人）

令和8 年 8 月 20 日

多治見市議会 議長様



会派名 共生

17 番議員 氏名 林 美行

質問題名	インフレ型社会における新本庁舎建設について
質問要旨	時代は大きく変わった。デフレ社会からインフレ型社会に。デフレ期に発想して作られた計画は早く見直すことが必要になる。理由としては、インフレの発生により、市民税も増加はするけれど、75歳以上の人口が高齢化人口の半数を超えた多治見市においては、地域コミュニティの再整備や公共交通の再整備を含む社会保障関係費の増大に対応することが求められることになるとともに、地域商業を含む地域産業の持続可能性を高める対策や地場産業の再整備が求められることになります。このような事態で一番大切になることは、持続可能性。税収が減り、国からの仕送りも減少すると想定されるので、やや長期の財政シュミレーションを行い、金利の変動や、大規模災害への対応が求められる、先が読みづらい時期が続くと予想される中、ここで巨額の、しかも、他市のような特例債事業等の割のよい収入も期待できない投資を行う事は、避けることが必要と考える。
質問項目①	新本庁舎建設計画における財政的負担は、今後の多治見市の運営に大きく負担をかけることになるのでは。建設事業費が与える財政運営への影響は。
質問項目②	駐車場、道路整備、現本庁舎跡地活用など後年度負担が生まれるが多治見市の今後の財政で対応できるのか。
質問項目③	人口減少に伴い財政は縮小する。縮小を減少させるための対策が先ではないか。財政の数字は時系列で低下しているが改善が期待出来るのか。
質問項目④	今は、建設を先送りして生まれるその財政的余剰資金の投入が求められている政策分野は多岐にわたると思うがいかがか。
質問項目⑤	ワンサイクル、30年先送りが選択の道ではないか。公共施設80年という選択が一番良いのでは。他市事例も出ている。
質問項目⑥	求められるのは、時代の変化に応じたまちづくりを急ぐことではないか。そこで一番大切な視点は、生活する市民を支援すること、また、地域での消費を縮小させないよう、生活者と中小の事業者をしっかりと支援する視点が必要になるのではないかと。私が意見を伺う市民のみなさんの声は、今じゃない。という声が多いのです。市民の声、住民投票で聞くべきではないのか。今なのか30年後なのかと。
質問の相手方	市長、企画部長、総務部長

市政一般質問発言通告書（会派代表・個人）

令和8 年 8 月 20 日

多治見市議会 議長 様



会派名 共生

17 番議員 氏名 林 美行

質問題名	合計特殊出生率について
質問要旨	令和12年（2030年）：1.8人に向、令和22年（2040年）：2.07人と総合計画にあるが、達成できるのだろうか。人口推計は地域経営において一番大切なものといいて良いと考えますが、合計特殊出生率1.09この意味。東京都の0.96よりは良いのですが、今でも重老齢社会となっておりまた高齢化率は34%です。この事態では先行きに期待が持てないと考えますがどのように考え、どのようなことが原因と分析し、そのための施策どのような政策を考えていくのかを伺うもの。
質問項目①	推計人口というものの意味をどのようにお考えか。
質問項目②	この数字は、総合計画がうまくいっていないという事ではないのか
質問項目③	原因は何で対策は何と考えているか。
質問項目④	これから、どのようにして対策をすすめようとしているのか。コミュニティの基礎ともいえる小学校区が維持できないという結果が生まれてしまうのではないのか。
質問項目⑤	もっと先を見据えた総合計画にしなければ、いつもその時だけということでは終わりがねないと思えるがいかがか。
質問項目⑥	若者のこの町に住みたいという数字が減少していることも心配（市民意識調査からみて）。このまちの魅力を失ってきているという事ではないのか。
質問の相手方	市長、企画部長